

報 告 書

2021年 12月 3日

活動実施団体名 NPO行徳自然ほごくらぶ

責任者名：野長瀬雅樹

報告書作成者名：野長瀬雅樹

1. 活動の名称（タイトル・テーマなど）

江戸前干潟研究学校

2. 実施日

2021年11月21日

3. 実施場所

千葉県市川市新浜3 行徳鳥獣保護区

4. プログラム等

10時 集合・受付 挨拶の後保護区内へ移動

10時～ 保護区内の海岸・池に前日設置した定置網を回収しながら、その都度採集された生物を観察・記録。

13時～13時半 昼食

13時半～ 持ち帰った分の生物(主にエビ)の同定・記録。

14時半 調査終了。

5. 対象・参加人数（内訳）

一般参加11名

スタッフ7名

6. 活動の内容・状況・感想（参加者並びに主催者）

行徳鳥獣保護区は東京湾奥部、宮内庁新浜鴨場に面する海面を埋め立てて造成された人工の自然保護区です。東京湾とは水門と水路で繋がり、干潮時には狭いながらも泥質の干潟が現れます。本土部には地域の生活排水を水源とする池や棚田があり、自然の力で浄化を図りつつ流下し、海へ注いでいます。淡水・汽水・海水と連続的に繋がるヨシ原(=かつての東京湾の風景)が復元された保護区の水生生物相に親しみ、保護区の環境や東京湾について知ってもらおうというのが江戸前干潟研究学校です。2015年から毎月1回の調査観察会を実施しています。

2021年はコロナ禍でなかなか公開開催ができませんでしたが、ようやく状況が一息ついた1月に一般公開行事として開催。一般参加者は3家族と大学生1名。時折晴れ間も見えたとはいえ、水温が下がり水生生物の動きも鈍くなる季節で採集量・種類ともに少なかったですが、久しぶりの保護区内行事ということもあり子供たちは笑顔でとれた魚やエビ・カニに手を伸ばしていました。昼過ぎに保護区を出て午前の部を終了。昼休憩をはさんで午後は現場で記録しきれなかった持ち帰りの生き物たちを有志で分類し数えました。シラタエビだけで1000尾を超えるなどなかなか大変でしたが、皆で分担して短時間で終わることができました。

7. 写真



調査中の様子



百合ヶ浜沖の大網 スズキ



シヤコ



エビは多数採集された



持ち帰ったエビを数える